

マナーアップキャンペーン

9月8日から10日まで、マナーアップキャンペーンが実施された。生徒の皆さんの下校時における交通マナーの啓発が主な目的だ。姫路別所駅前から真っ直ぐ北上するルートが本校の通学路になっている。そのJAの付近に、生徒会執行部、PTAの役員の皆さん、先生方が「自転車の左側一列通行」「歩行者の右側通行」を呼びかける。見ている限り（見ていないところでももちろんだが）、ルールを守って、マナーよく、下校してくれているようだ。聞いたところによると、本校生徒が通ってはいけないルートがあるらしい。かつて荒れていた頃、民家の庭先にごみを捨てたり、物を壊したり、大声で叫んだりなど、傍若無人の振る舞いをしてしまっていたことがあったようだ。だから、白陵中学・高校の生徒は通ってもいいが、本校の生徒は通ってはいけないことになってしまったルートが存在する。信頼を築くには時間がかかるが、信頼を失うのは一瞬だ。どの道でも通れるように、日々の生徒の皆さんの行動が試されている。

9月9日のHRで連絡があったと思うが、PTAの役員の方からは、「しっかり挨拶ができるようになっていて、うれしい」と述べられていた。私もうれしい。生徒の皆さんの日頃の取り組みに感謝だ。

挨拶がよくなった

毎朝、生徒昇降口にいる。4月当初は、恥ずかしがってか、なかなか返ってこなかった挨拶が、今や感覚として6割以上の生徒の皆さんが、先に挨拶をしてくれるようになった。「あ：明るく、い：いつも、さ：さきに、つ：続ける」の中の「さ：さきに」を私が実践しにくくなった。うれしい悲鳴だ。2学期になり、新たな段階に入っている。ちゃんと相手の眼を見て、ほほえみの表情を眼もとにたたえた挨拶ができるようになっている生徒の皆さんが大変多くなった。「あ：明るく」もできつつある。だから、上記のマナーアップキャンペーンの時にもいい挨拶ができるんだろう。付け焼刃ではない挨拶の能力が身についてきた証拠だ。2学期始業式の際にも、挨拶日本一の指標を「自分から挨拶をしようと努力している人の割合が100%」とすることを伝えた。100%以上はないわけだから、それは日本一になる。そんな「挨拶日本一の高校」への道のりは、簡単ではないが、不可能でもない。意識が変われば、行動が変わる。行動が変われば、結果がついてくる。結果がついてくれば、自信になる。すると意識が高くなる……。

遅刻は……。10月の全校共通目標として「理由のない遅刻をゼロにする」を提案する

「体調が悪い時は、周囲への影響も考えて思い切って休む」これがコロナスタイルとして新たな価値観になりつつある。コロナ禍においては、「欠席扱いにしない」としているのも、活用してほしい。一方、遅刻は相変わらずのところがある。これから冬が近づくにつれて、布団から出にくくなったり、家を出るのが躊躇われたりすると、ますます理由のない遅刻が増えていくのではないかと危惧している。それで提案だが、10月の各クラスの月間目標を二つにして、そのうちの一つを「理由のない遅刻をゼロにする」として、全校挙げて遅刻防止強化月間にしてはどうだろう。気候のいい10月に遅刻しないことを定着させて、冬を乗り切るという作戦だ。生徒会を中心に考えてみてほしい。

大谷翔平選手の活躍がわかるエピソード

アメリカのメジャーリーグの大谷翔平選手は、投打の二刀流で本場アメリカの人々を驚愕させているが、それだけではなく、その振る舞いも称賛されている。グラウンドに落ちているごみをそっと拾い、ポケットに入れるのだ。高校時代当時の監督から「ごみは人が落とした運。ごみを拾うことで運を拾うんだ。そして自分自身にツキを呼ぶ」と教えられていた。信じて実践し、継続する。それが力になる。

We keep on challenging. 挨拶日本一の高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩